

資料2

指導案 本時の学習(1/8時間目)

(1) 目標 いろいろな三角形の中から、辺の長さに着目して仲間分けすることを通して、二等辺三角形と正三角形を弁別することができる。

(2) 本時の見通し

4種類の長さの違うストローで三角形をつくり、それらを仲間分けする作業的な活動により、二等辺三角形や正三角形の性質に気付くことができる。

友達と意見の交流を図ることにより、自分や友達のよさやがんばりに気付くことができる。

(3) 評価規準

関心・意欲・態度	A	辺の長さの組み合わせに着目して、三角形の共通点や相違点を見付けようとするとともに、構成要素と二等辺三角形と正三角形の名称に関心をもつことができる。
	B	辺の長さの組み合わせに着目して、三角形を分類しようとしている。

(4) 指導方針

個に応じた指導の工夫

三角形をつくる場面、仲間分けの場面で3～4人のグループ活動を取り入れ、友達とかかわりながら活動できるようにする。グループ内の話し合いは、発表力のある児童だけの活動にならないよう、順番を決めだれもが発表できるようにする。

自己肯定感を高めるための支援

つかむ過程で、自分と友達のよさやがんばりを見付けて書くことをあらかじめ知らせておき、まとめの過程で書き込めるようにする。

本時の支援例

グループでの話し合いで、自分の意見が言えるように支援する。

グループでの話し合いで、ほかの児童の意見も取り入れられるよう支援する。

三角形をつくる場面では、作業に時間がかかると思われる児童には、T2が支援に入る。グループ内で助け合えるように声かけをする。

三角形をつくる場面では、作業に時間がかかるので、楽しく取り組めるように声かけをする。グループ活動で、ほかの児童と協力できるように支援する。

(5) 準備

指定の長さのストロー（児童1人に12本：6cm、8cm、10cm、12cmの各3本ずつ）

5cmのモール児童1人に12本

班ごとに、四つ切り画用紙1枚、マジック2本、セロテープ

掲示用三角形 ワークシート（振り返りカード）

(6) 展開

過程	学習活動	時間	支援（ ）と留意点（・）	評価の観点（方法）
つむ	1 本時の学習のねらいを知る。	10分	・本研究のねらい「自分と友達のよさを見付けて伝えよう」を知らせ、振り返りカードによる自己評価の視点を伝える。	
	2 いろいろな長さの違うストローを使って三角形を		・学習課題をワークシートに書かせる。 ・グループごとに材料を分けておく。 ・三角形は、3本のストロー（辺）	楽しく取り組めるように声かけをする。「これから何をするか、分からないことがある？」

本時の活動の目標を視覚・聴覚で伝える。

いろいろな三角形をつくって、なかま分けをしよう。

	つくる。		<p>を使ってつくることを確認しながら、1例を見本として提示する。頂点の部分はセロテープで留める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で同じ大きさの形をつくらないようにする。 ・回転してできる形も同じ形であることに気付かせる。 ・グループで協力するように指示する。 <p>作業の進まない児童へ支援をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黙々と作業している児童にも、声かけをしていく。 	<p>ていねいな作業や友達と話し合っていることを認める。</p> <p>友達と話し合っていることを認める。「自分の意見がしっかり言えたね。友達と同じ考えだった？」</p> <p>作業で困っていたら友達に助けを求めてもいいことを伝える。「『ちょっとここを持って』とか言ってごらん？」</p>
なるべく児童に考えさせる。「向きが違っていると違う形なのかな。どう思う？」				
だれが発表しているか、確かめながら机間支援する。「最後まで聞こうね。次はだれかな。困っていることはないかな。」	3 仲間分けを考える。	20分	<ul style="list-style-type: none"> ・どの三角形もいずれかの仲間に分類できることに気付かせる。 ・画用紙の上に、できた三角形を並べ、三角形を分類する観点を発表してからグループでの観点を決めて見通しをもって取り組ませる。 ・途中での変更も認め、最終的なまとめをマジックで書かせる。 <p>グループ活動に消極的な児童から机間支援を始める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループの画用紙を黒板に貼り、気付いたことを発表させる。 <p>色や大きさ、形で分類しても、自分たちの考えがもてたことをほめ、辺の長さに着目した友達の分類のよさに気付かせていく。同じ分け方をしたグループごとに発表させる。</p>	<p>【関】見つけた分け方を分かりやすく説明しようとしている。(発言・ワークシート)</p> <p>「分かりやすく言えたかな？」</p> <p>仲間分けの根拠を説明させる中で、発想の面白さや確かさを認めるとともに、違う考えについても聞き、いろいろな考え方があることに気付かせる。</p> <p>仲間分けの説明をする中で、発想の面白さを生かそうにする。「ふうん。なるほどね。いいところに気が付いたね。」</p>
追 求 す る	4 仲間分けを発表する。 <集団解決>			
聞くときの視点を明確にする。「自分たちの分け方とどこが似ているか、違おうかよく聞いていようね。」				
	5 二等辺三角形と正三角形を知る。	15分	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに二等辺三角形と正三角形の定義をまとめさせる。 	<p>【知】二等辺三角形と正三角形の定義を理解できる。</p>
	6 二等辺三角形と正三角形を弁別する。		<ul style="list-style-type: none"> ・見た目だけで弁別している児童には、ものさしやコンパスで辺の長さを調べればよいことに気付かせる。 ・コンパスの扱いの苦手な児童へ個別支援をする。 	<p>レディネステストではコンパスの扱いができていなかったのでも、「頂点とぴったり合っていないよ。よく確かめてごらん。」</p>
「どの辺の長さが同じか見て分かるものもあるけど、確かめた方がいいよね。どうしたらいいかな?。」	7 振り返りカードを書く。		<p>どんな些細なことでも気付いて書いたことを認める。</p> <p>振り返りカードでみんなに紹介したいことを発表させる。</p>	<p>友達と協力してできたことを認めて声かけする。「いいところに気が付いたね。」</p>

(6) 評価

グループ活動を取り入れて友達とかかわりながら作業的な活動を行うことにより、辺の長さに着目して三角形を弁別することができたか。